

未来へ希望を紡ぐ選択

少子高齢化で急激な人口減少が進むなか、自治体の持続可能性が厳しく問われています。いま、本市が直面している財政の硬直化や市の貯金である財政調整基金残高の減少などの財政危機は、市の財政が歳入に見合った歳出構造になっていないことがその問題の根本となっています。しかし現状をただ悲観しているだけでは未来はありません。子どもたちが誇りを持てる元気な匝瑳市を次の世代へしっかりと引き継ぎ、希望を紡ぎ出すためのリスタートに向けた改革に現在、取り組んでいます。

まずは市民の皆さんの命と安全を守る砦として、市民病院や消防庁舎の建て替え整備を着実に進めています。これは災害に強く、誰もが安心して健やかに暮らせるまちの基盤となります。また、財政健全化の取り組みを進め、「子どもたちの教育や子育て支援」そして地域活力を生み出す「産業振興」などにより効果的に投資していく考えです。この取り組みを確かなものにするため、「匝瑳市財政健全化推進委員会」のもと、抜本的な改革へ舵を切りました。まず、行政自らが身を切る改革として、私をはじめとする特別職の月額給与の減額、職員人件費や事務経



費の徹底的な抑制などの自助努力を尽くしてきます。その上で、限られた財源を未来のために集中させるため、令和8年度は8事業の廃止、68事業の縮小・休止を決定しました。さらに今後、公共施設の統廃合なども進めていかななくてはなりません。

既存の行政サービスにメスを入れることは私にとってもまさに断腸の思いであり、苦渋の決断に他なりません。負担や不便を強いることを承知の上で、あえてこの厳しい選択をした背景には、このままでは本当に守るべき福祉や医療・防災も維持できなくなるといふより深刻な市民生活への打撃を招くという強い危機感があります。

皆さんにはご不便をおかけしますが、これは単なる予算削減ではなく、市の「持続可能性」と「稼ぐ力」を高め、子どもや孫の世代へ、誇れる豊かな故郷を引き継ぐための土台づくりの第一歩です。市民の皆さんの深いご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

匝瑳市長 宮内康幸

匝瑳探訪 美田の影に

八日市場を歩く

田植えを終えた市内の水田は緑が広がっています。中央地区下出羽の踏切を渡り県道48号線を野栄方面に向かい、大利根用水の八石橋を過ぎて進むと、左側にブロックで囲まれた「流れ灌頂」に並んで石碑が立っています。この碑は、1964

(昭和39)年に立てられた大利根土地改良区理事長の撰文で上部に「農魂」と書かれ、この周辺の耕地整理の経緯が刻まれています。

農業の近代化が叫ばれた戦後、耕地整理の必要性が高まり、同土地改良区八日市場第五工区では昭和38年10月に総会が開かれ、翌11月から整理工事が開始されました。しかし、この年は近年まれに見る悪天候の連続で、工事は難航しました。それでもブルドーザー2台を使い、七間堀の埋め立てや低地

帯の改修、農道の設置など土砂を運び入れ、トラックや一輪車を使い、延べ1万5000人余りの労働者を動員して完成させました。現在の総武本線南側の水田、総面積42・5ヘクタールがこの工事で区画整理されました。

この地域は碑文に「典型的な低湿地で、用排水は極めて悪く、水利権は隣と幾多の問題を起こし」とあるように、江戸時代には横須賀村との間にあった沼をめぐって争論が起こり、1664(寛文4)年には「裁許絵図」が下置されました。

この沼は八日市場村では排水用に利用し、横須賀村は用水に使っていたため裁許後、両村は沼を新田に開発しないこと、溝さらいなど双方で協力することなどが申し渡されましたが、なかなか決められた通りには行かなかったようです。

碑文に「その昔、葦蒲生い茂る原野であった所、1886(明治19)年先人の開拓により」とあることから、江戸時代に開発できなかった沼も明治になり手が加えられたようです。

「今や往時の低湿地帯も全く美田と変じ」と刻まれたように、先人の努力が「農魂」の碑により現在に伝えられています。

(市文化財審議会委員)

依知川雅一

図書館課広報聴班

☎73・0080



先人の努力を伝える「農魂」の碑

文芸コーナー

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289-2198 匝瑳市八日市場八793番地2
☎73-0080 FAX72-1114

短歌

依知川 雅一 推薦

夫が摘み我が乾したるドクダミの

お茶を家族でじっくりと飲む

鈴木 志子

心配の多き日々なれど前を向き

小さな幸福見つけて生きたし

木下 昌子

通じたか既読の文字に安心す

打ったメールを読み返す我

鈴木 和子

特大の春がごろんと置かれたり

スーパ―に並ぶ大きなキャベツ

宇野とし子

早足で半年過ぎる午年よ

余った賀状でそつと投稿し

小川 一夫

おくればせ満開の土手八重桜

気温二十七度夏日の四月

金澤 俊

ふれセンの藤棚に咲く花房の

春のそよ風優しくなでる

古谷由美子

石田 健治 推薦

春うらら池のほとりの亀五匹

体寄せ合ひ甲羅干しする

伊橋 良子

名も知らぬ愛らしい花咲き誇る

主無くとも不死鳥のごと

鶴澤 澄子

俳句

椿 和枝 推薦

くりやごと出窓染めたる春夕焼

石塀に光あまねし蕪若葉

苗植うる老夫婦の背に蝶が舞ふ

風神のくつろぎたまふ五月かな

馬鈴薯の花のむらさき朝の雨

青梅の小さきながらに雨はじく

歳月の遠く短かし山笑ふ

踏味噌を飯に広げて野の光

佐々木之子

椎名 晴江

石井 洋子

吉井 八流

那須 恒雄

山崎智恵子

光瀬甲江子

岩井 やす

石田 健治 推薦

雲隠れ富士もしばしの別れかな

孫二人桜舞う下墓参り

春日 政彦

須貝 玉枝

川柳

勝又 康之 推薦

ペットにも歯磨きさせる愛犬家

良い歯の日なるとその時良く磨く

入れ歯はめ何でも噛める嬉しさよ

クシヤミして入れ歯今にも外れそう

良く噛んで守る健康虫歯なし

うらやまし歯を気にせずに食べる人

嬉しくてもらった服を自慢する

江波戸京子

林 長三郎

伊藤 繁子

鶴澤 澄子

渡部すい子

伊橋 裕子

安藤 幸恵

石田 健治 推薦

よっこらしよあれ何だつけが癖になり

元気だと話題にならない老人会

熱田真こと

てつ幹

地域おこし協力隊通信

第15回



今月の担当は鈴木優介隊員／1999年生まれ。匝瑳市出身。大学卒業後、企業のメディア事業部で動画制作業務などを経験。現在、フリーランスとして動画制作業務などに従事。匝瑳市を盛り上げるため、さまざまなイベント情報を発信中。



地域とともに歩んだ3年間

地域おこし協力隊として活動を始めてから、気付けば3年がたとうとしています。この3年間、多くの人に支えられながら、地域の皆さんと関わり、匝瑳市の魅力や温かさを改めて感じる日々を過ごしてきました。イベントや情報発信、地域の人々との交流など、さまざまな活動に取り組む中で、自分自身も地域に育ててもらったように感じています。時には悩みながら進むこともありましたが、そのたびに周

囲の皆さんの支えに助けられてきました。少しでも地域の力になれていたなら嬉しく思います。

6月末で協力隊としての任期は満了となりますが、まずは最後まで全力で走り続けたいと思っています。そして7月からは立場こそ変わりますが、これからも匝瑳市や地域のために、自分にできることを一つずつ続けていくつもりです。「元」協力隊員にはなりますが、姿を見かけた際はぜひ気軽に声

を掛けてください。今後ともよろしくお祈りします。



匝瑳市シティ・アンバサダーSOWさんのミュージックビデオを市内で撮影